

平成 29 年度第 1 回東広島市環境審議会
進行管理報告

平成 29 年 8 月 22 日

目 次

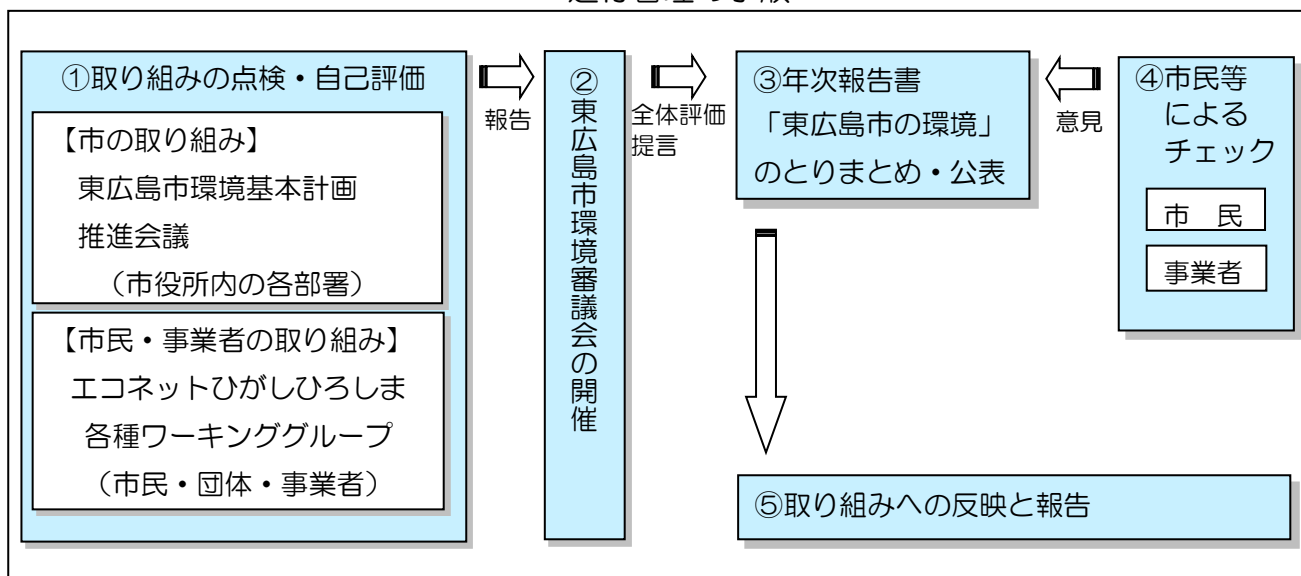
1	進行管理の手順	1
2	評価の方法	1
	（1）重点プロジェクトの進捗状況	
	（2）数値目標に係る進捗状況	
3	重点プロジェクト	2
	（1）位置付け	
	（2）重点プロジェクトの展開のイメージ	
4	各重点プロジェクトの進捗状況と課題	5
	（1）重点プロジェクト1	5
	①重点プロジェクト1の概要	
	②重点プロジェクト1に関連する市の主な取り組み状況（平成28年度）	
	③重点プロジェクト1に関連する市の取り組みに対する自己評価等（平成28年度）	
	④重点プロジェクト1に関連する市民・事業者の主な取り組み	
	（2）重点プロジェクト2	8
	①重点プロジェクト2の概要	
	②重点プロジェクト2に関連する市の主な取り組み状況（平成28年度）	
	③重点プロジェクト2に関連する市の取り組みに対する自己評価等（平成28年度）	
	④重点プロジェクト2に関連する市民・事業者の主な取り組み	
	（3）重点プロジェクト3	11
	①重点プロジェクト3の概要	
	②重点プロジェクト3に関連する市の主な取り組み状況（平成28年度）	
	③重点プロジェクト3に関連する市の取り組みに対する自己評価等（平成28年度）	
	④重点プロジェクト3に関連する市民・事業者の主な取り組み	

1 進行管理の手順

本計画の期間は、平成 33 年度を目標年度として、平成 24 年度から 10 年間としている。実効性の高い計画としていくために、毎年度、本計画の進行管理を実施することとしている。

市の取り組みについては、東広島市環境基本計画推進会議において、取り組みの点検・自己評価を実施することとしており、その結果を、東広島市環境審議会に報告し、評価や提言を受けることとしている。

進行管理の手順



本計画の内容は多岐に渡るため、推進会議では、計画の中でシンボリックな取り組みとして掲げている、3つの重点プロジェクトと、進行管理に用いる評価指標としている数値目標に対する市の取り組みの進捗を中心に点検・評価を行うこととする。

なお、本計画では、21世紀半ばの将来像ごとに、各種事業に関する様々なデータや、アンケート調査から得られる結果を評価の指標として用いている。

2 評価の方法

本報告では、次の点について評価を行った。

(1) 重点プロジェクトの進捗状況

本計画でシンボリック取り組みとして掲げられている、3つの重点プロジェクトについて、これに係る市の取り組みの進捗状況を評価した。

(2) 数値目標に係る進捗状況

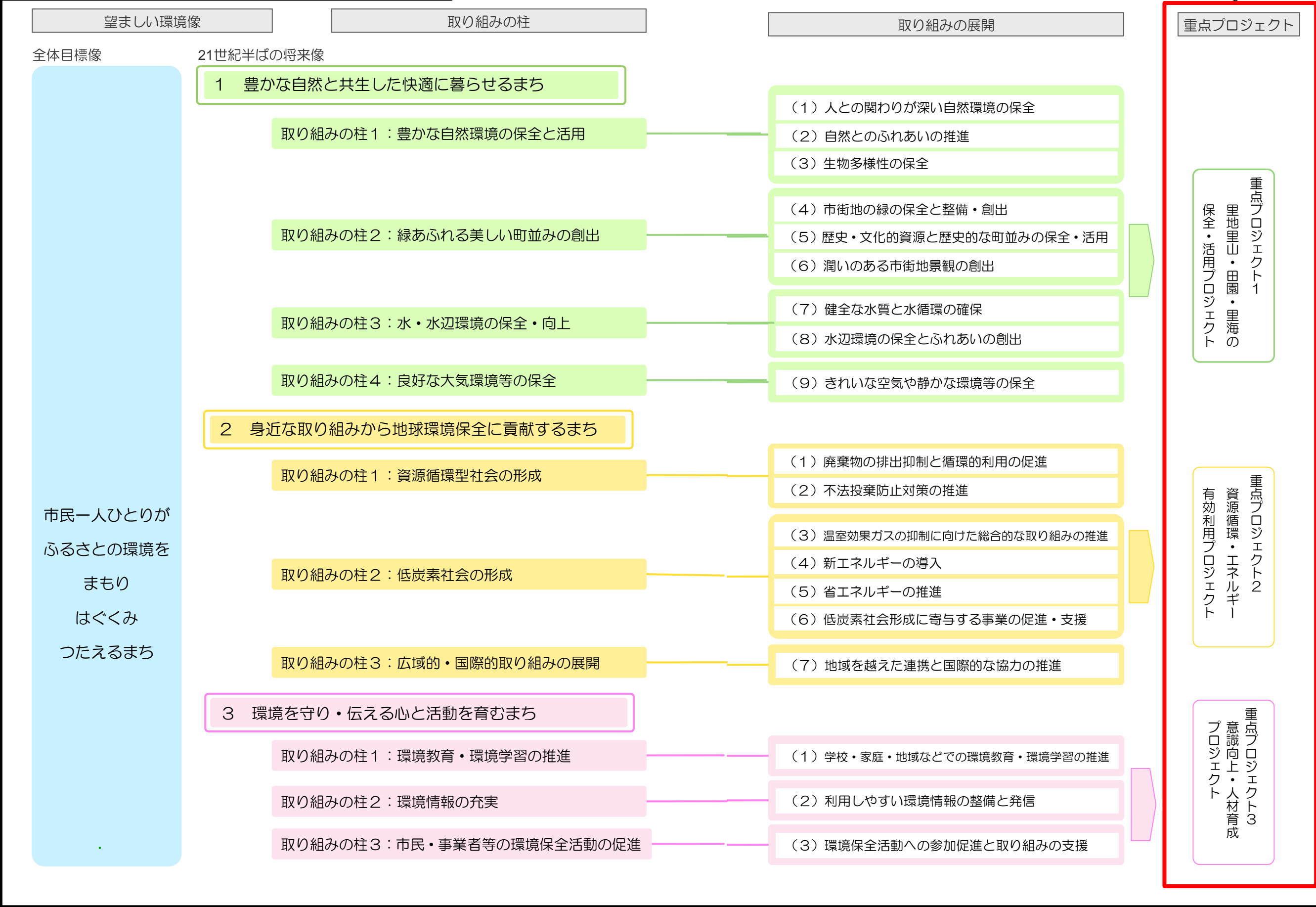
本計画では、各種評価項目に数値目標を設定している。これらの数値目標を関連する重点プロジェクトごとに分け、それらの達成状況について評価した。

3 重点プロジェクト

(1) 位置付け

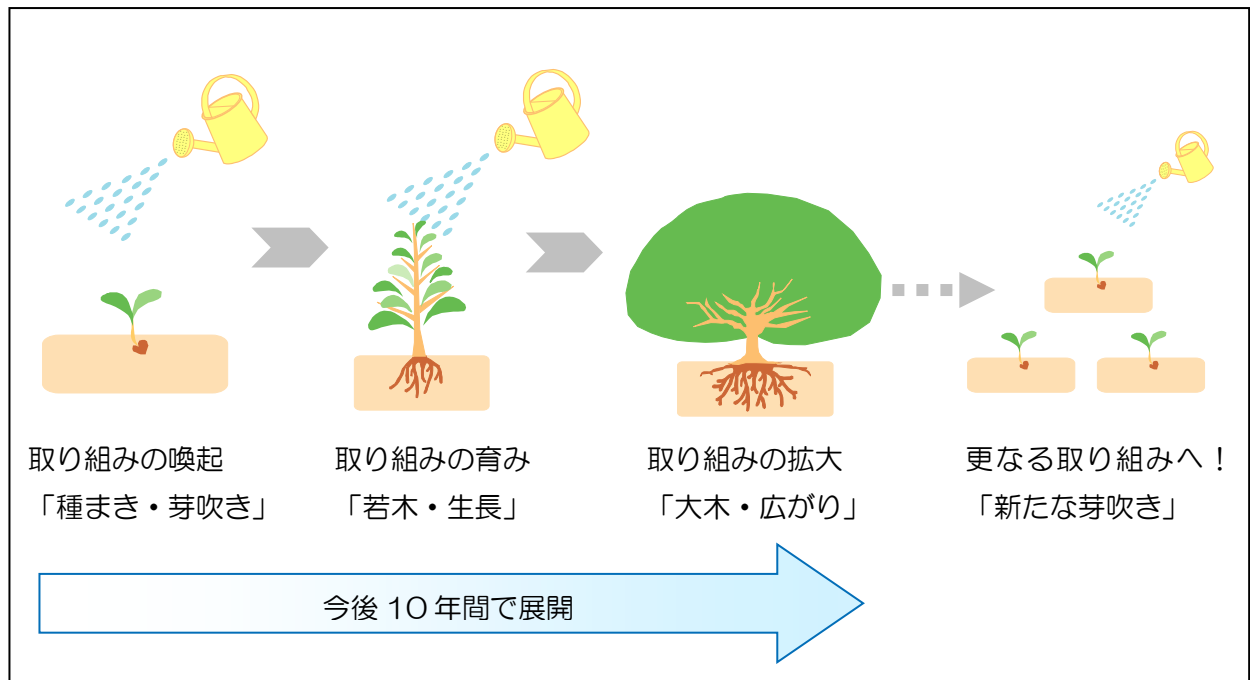
重点プロジェクトは次ページの表のとおり、本計画で掲げる望ましい環境像（全体目標像）で示した3つの姿（21世紀半ばの将来像）のそれぞれに設定されている。より多くの市民や事業者が、望ましい環境像実現のために取り組みに参加するきっかけとなり、将来的にはより大きな取り組みへと発展させていくためのシンボリックな取り組みとしているものである。また、それぞれのプロジェクトを相互に関連付けることで、望ましい環境像の実現を目指している。

表. 東広島市環境基本計画 取り組みの体系



(2) 重点プロジェクトの展開のイメージ

図. 重点プロジェクトの展開イメージ



本計画で設定する3つの重点プロジェクト

重点プロジェクト1：「里地里山・田園・里海の保全・活用プロジェクト」

- ・人との関わりが深い自然（里地里山・田園・里海）の保全と活用を目的としたプロジェクト

重点プロジェクト2：「資源循環・エネルギー有効利用プロジェクト」

- ・ごみ排出量の削減と再資源化の促進による資源循環型のまちづくりと地球温暖化の防止を目的としたプロジェクト

重点プロジェクト3：「意識向上・人材育成プロジェクト」

- ・環境に配慮した行動がとれる市民を育てていくことを目的としたプロジェクト

4 各重点プロジェクトの進捗状況と課題

(1) 重点プロジェクト1

①重点プロジェクト1の概要

重点プロジェクト1 「里地里山・田園・里海の保全・活用プロジェクト」

＜プロジェクトの方向性＞

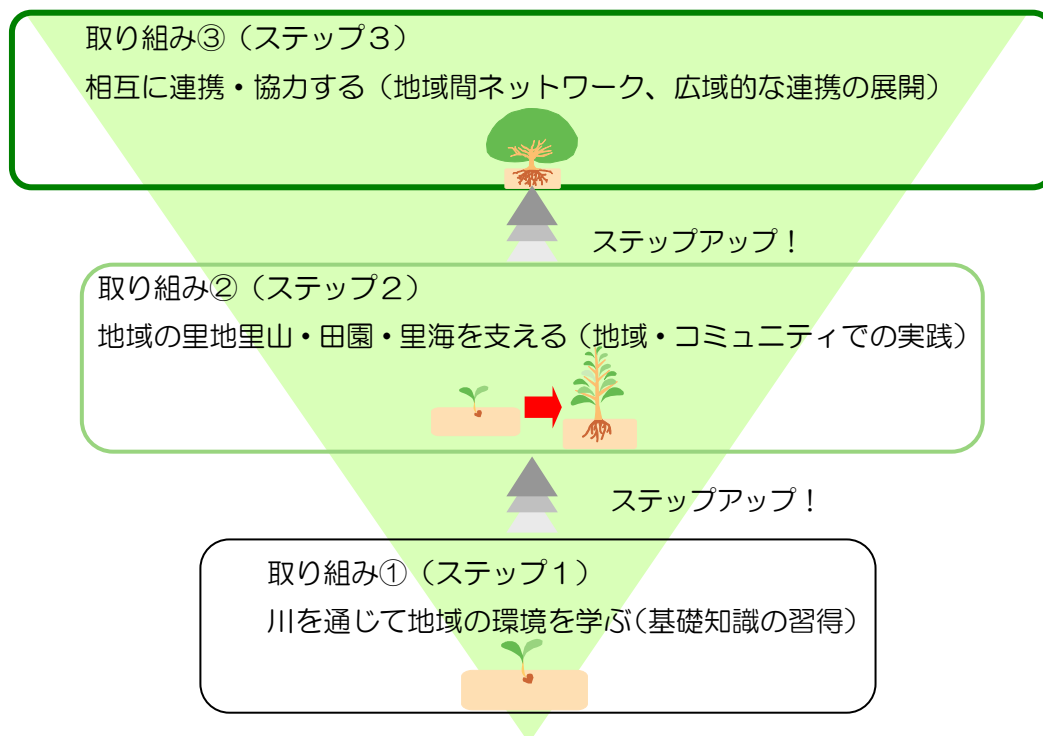
東広島市は、森林、農地、河川、ため池、海と人との関わりの中で育まれてきた、里地里山・田園・里海を有している。

しかしながら、高齢化や少子化による農林漁業の担い手の減少などから、森林の荒廃や耕作放棄地の増加など、特に、里地里山や田園の環境の悪化が懸念されている。また、干潟の減少、地球温暖化に伴う海水温の上昇など里海を取り巻く環境にも変化が起きている。

一方、本市を流れる河川をみると、太田川や江の川、黒瀬川、瀬野川、沼田川等の水系の源流域にあたり、本市は「水が生まれるまち」とも言え、隣接する市町の水環境や瀬戸内海的环境に対する大きな責任を担っている。

そこで、広域的な環境の保全につながることも念頭に置いた里地里山・田園・里海の保全・活用の取り組みを進める。

「里地里山・田園・里海の保全・活用プロジェクト」の展開イメージ



② 重点プロジェクト1に関連する市の主な取り組み状況（平成28年度）

	取り組み事例（概要）
（ステップ3） 取り組み③	【廃棄物対策課】きれいなまちづくりキャンペーンの実施 （市民、事業者及び行政が一体となつてごみの回収ワークを実施）
（ステップ2） 取り組み②	【農林水産課】間伐材等利用可能性調査業務 （自伐林家養成研修・木質バイオマス活用システム構築実証実験等）
	【農林水産課】緑化推進事業 （自然学習や植樹祭などの行事を通じてみどりの少年団員を養成）
	【文化課】文化財調査保護事業 （オオサンショウウオ生息等調査）
	【生涯学習課】生涯学習活動事業 （地域センター等で自然と触れ合う講座を開催）
（ステップ1） 取り組み①	【環境対策課】環境学習（オオサンショウウオの保護） （広島大学総合博物館と連携し、豊栄小の児童に環境学習を実施）
	【環境対策課】出前講座による啓発 （地域・学校向けに出前講座「川を通じて地域の環境を学ぶ」を開講）

※市の事例は、ステップごとの分類が難しい事例が多いため、代表事例のみ掲載し、事例数は掲載しない。

③ 重点プロジェクト1に関連する市の取り組みに対する自己評価等（平成28年度）

1 自己評価（報告事業数：47事業）

評価	◎ （予定以上に実施）	○ （概ね予定通りに実施）	△ （あまり予定通りに実施できず）	× （ほとんど実施できず）
事業数	0	46	1	0

※△の事業：えひめAI推進事業（環境学習は実施したが、特定の集落でえひめAIを使用してその効果を検証することはできなかった。）

2 平成28年度に新規に実施報告のあった主な事業

	事業名等	事業概要
1	【生涯学習課】生涯学習活動事業	地域センター等で、地域をめぐるウォーキング講座等の、自然と触れ合う講座を開催
2	【環境対策課】事業場への構造基準適合状況の立入検査の実施	有害物質を使用等している事業場へ立入検査を実施。施設の構造基準の不適合項目への改善指導を実施した。（立入件数：11事業場）

④ 重点プロジェクト1に関連する市民・事業者の主な取り組み状況（平成28年度）
（市環境対策課把握分）

	取り組み事例（概要）	事例数
（ステップ3） 取り組み③	【太田川流域振興交流会】太田川流域の振興と交流と推進 （太田川の流域市町が連携。流域内で水質保全活動、自然環境保全活動等を実施） 【広島セブンの森づくり活動】吉川の里山環境を守ろう！ （広島県と（株）セブン・イレブン・ジャパンとの包括協定に基づき、同社や地元と市の職員によって企業の森として整備を実施。賀茂地方森林組合による間伐・植樹作業指導も行われた。）	5
（ステップ2） 取り組み②	【後谷つつじの里づくりの会】つつじの里づくり （福富町内に多数自生している野生のつつじを守り育てるために山の手入れをする活動をしている。） 【半尾川再生まちづくり倶楽部】半尾川再生プロジェクト （半尾川を憩いの空間に変えるプロジェクト。みんなが親しめる水辺に再生できるよう、川沿いで草刈りやヒガンバナ等の球根の植え付けを行った。） 【米満に桜を植える会】黒瀬川沿いの維持管理 （年に4～5回、黒瀬川沿いに植えた桜の木の手入れを中心に土手の草刈りなど周辺環境の維持管理を地域の方々が行った。）	64
（ステップ1） 取り組み①	【寺西小学校】ふるさと探検黒瀬川 （黒瀬川に入り、川に棲む生き物調査を実施。川の流れの原因、川をきれいにするためにできることを考えて発表した。） 【東広島の野鳥と自然に親しむ会】野鳥観察会・自然観察会 （八本松町の七ツ池などで、会員・一般問わず参加できる野鳥の観察会を開催。）	14

※同一の事例であっても、報告者が異なる場合はそれぞれを1事例としてカウントしている。

⑤重点プロジェクト1の進捗状況と課題

1 進捗状況

市の取り組み、市民・事業者の取り組みとも、取り組み①の「基礎知識の習得」や、取り組み②の「地域・コミュニティでの実践」については、多く実施されているが、取り組み③の地域を超えて相互に連携・協力するという「地域間ネットワーク、広域的な連携の展開」については、いくつか事例はあるものの、まだ少ない状況にある。

2 課題

各地域の市民や団体が連携するためには、当事者である市民等が自発的に取り組むことが不可欠であり、行政主導で結び付けを行うことは難しい。しかし、行政には各地域の環境保全に関する状況や課題に関する情報が集まりやすいことから、地域間の連携によって解決につながりそうな課題があれば、そのきっかけ作りを支援する必要がある。

また、取り組み②が多くある中、取り組み③が少ないというのは、事業の実施主体が活動を現状で十分と考えているか、地域間で連携するメリットを感じていない可能性があり、その意識を変えていくことも、重点プロジェクト1を今後進めていく課題である。

＜参考１：重点プロジェクト１に関する数値目標に係る進捗状況＞

（１）取り組みの柱１：豊かな自然環境の保全と活用

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
1	間伐を実施すべき森林の面積	—	12.8ha （平成28年度）	具体的な数値目標なし	—
2	耕作放棄地解消面積	0ha	22.9ha （平成28年度）	20ha	◎
3	エコファーマー認定件数	5件	27件 （平成28年度）	15件	◎
4	自然公園の利用者数	99,376人	93,207人 （平成28年度）	110,000人	×
5	市民アンケートにおいて「余暇は自然とふれあうように心がけている」と回答した市民の割合	47%	51% （平成27年度）	60%	○
6	動物基礎調査・水生植物基礎調査で確認された種数（ただし、外来生物は除く）	水生植物：77種	蝶：5科92種、 トンボ：11科83種 水生植物：77種 オオサンショウウオ（成体）：61個体 （平成27年度）	次回調査時に同種数以上を確認	○

（２）取り組みの柱２：緑あふれる美しい町並みの創出

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
1	歩いていける範囲の都市公園等の市街地に対する整備率	66.4%	69.1% （平成28年度）	70%	○
2	公園里親制度活用団体数	26団体	69団体 （平成28年度）	60団体	◎
3	市民アンケートにおいて「公共の広場、公園、緑」に対して満足と回答した市民の割合	38%	41% （平成27年度）	60%	○
4	市民アンケートにおいて「歴史的な資源の豊かさ」に対して満足と回答した市民の割合	30%	32% （平成27年度）	60%	○
5	市民アンケートにおいて「町並みの美しさ」に対して満足と回答した市民の割合	39%	35% （平成27年度）	60%	×

※表中の達成状況は、現況数値の状況を次のように表したものである。

◎：すでに目標数値を達成済み ○：目標数値には達していないが計画策定時より良化した
△：計画策定時と変化なし ×：計画策定時より悪化した —：比較できる数値がない

（３）取り組みの柱３：水・水辺環境の保全・向上

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
1	生活環境項目に係る排水基準のうち、一般項目の適合率（水質）	80.1%	81.8% （平成27年度）	83%	○
2	水洗化人口普及率	62.1%	81.7% （平成28年度）	79%	◎
3	市民アンケートにおいて「川などの水のきれいさ」に対して満足と回答した市民の割合	41%	33% （平成27年度）	60%	×
4	市民アンケートにおいて「水や水辺とのふれあいのしやすさ」に対して満足と回答した市民の割合	28%	17% （平成27年度）	60%	×

（４）取り組みの柱４：良好な大気環境等の保全

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
1	大気汚染に係る環境基準項目のうち、二酸化硫黄・二酸化窒素・浮遊粒子状物質の適合率	100%	100% （平成28年度）	100% （現状を維持）	◎
2	騒音に係る環境基準適合率	87.8%	96.7% （平成28年度）	90%	◎
3	市民アンケートにおいて「空気のきれいさ」に対して満足と回答した市民の割合	78%	70% （平成27年度）	90%	×
4	市民アンケートにおいて「まちの静けさ」に対して満足と回答した市民の割合	63%	60% （平成27年度）	80%	×

＜重点プロジェクト１に関する数値目標に係る進捗状況と課題＞

１ 進捗状況

「取り組みの柱１：豊かな自然環境の保全と活用」では、自然公園の利用者数が減少しており、市民への利用促進が進んでおらず、取り組みの柱２～４については、市民アンケートの結果、「町並みの美しさ」や「川などの水のきれいさ」に対する満足度が減少している。

一方で、「取り組みの柱１」にあるように、「余暇は自然とふれあうよう心がけている」と回答した市民は増加しており、自然との触れあいを求める市民は増加している。

２ 課題

行政として市民が満足する環境の整備につながる事業を実施する必要があると考えられる。

（例）・自然体験教室などの自然と触れあうイベントの開催

- ・市民が親しみやすく訪れやすい公園の整備
- ・河川整備や農地整備にあたっては、生物の生息・生育に配慮した整備を努める

(2) 重点プロジェクト2

①重点プロジェクト2の概要

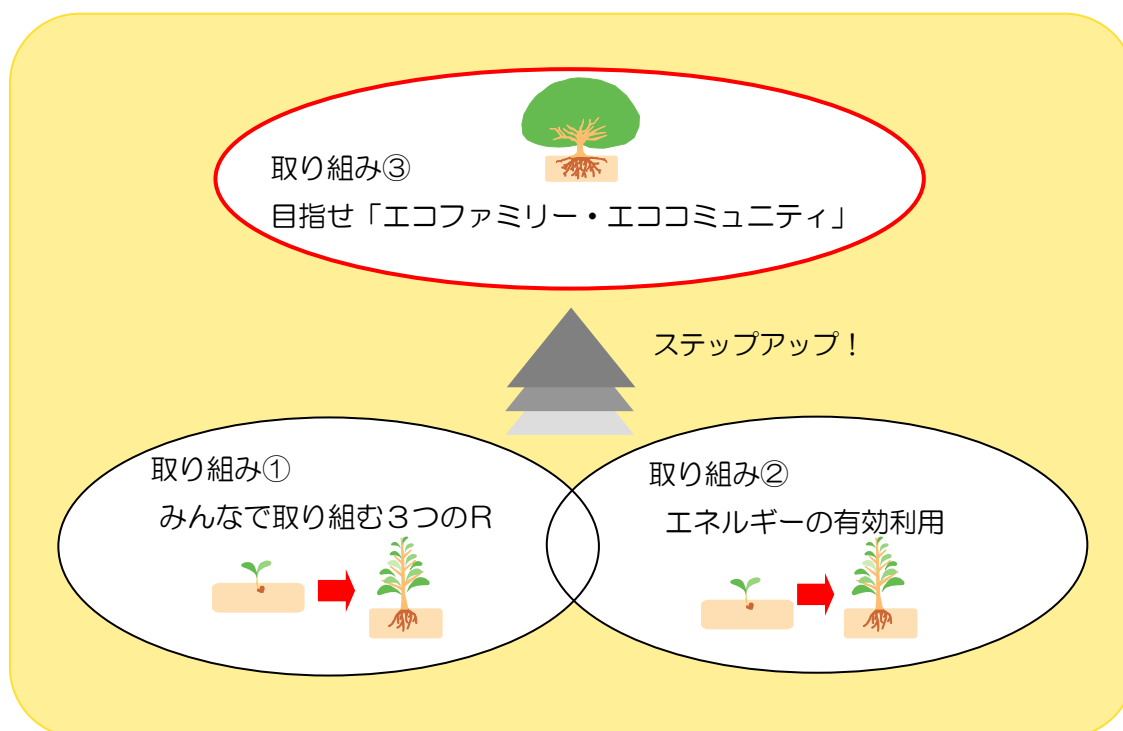
重点プロジェクト2 「資源循環・エネルギー有効利用プロジェクト」

ごみの排出量の削減と再資源化の促進による、資源循環型のまちづくりを進める。

特に、ごみと資源物の分別は市民の基本的なルールであり、100%の実施率を目指す。

また、地球温暖化防止に貢献するまちづくりのために、新エネルギーの利用や省エネルギー型のライフスタイルが当たり前のこととして日常生活に根ざしていくような取り組みを進める。

「資源循環・エネルギー有効利用プロジェクト」の展開イメージ



② 重点プロジェクト2に関連する市の主な取り組み状況（平成28年度）

	取り組み事例（概要）
（ステップアップ） 取り組み③	【環境対策課】ライトダウンキャンペーンへの協力 （ライトダウンキャンペーン会場周辺の店舗等に出向き、開催時間帯の不要な灯りの消灯の協力を要請）
取り組み②	【消防総務課】太陽光発電 【管財課】新エネルギー機器の導入 【生涯学習課】「東広島芸術文化ホール（くらら）」への太陽光発電設備等の設置工事 （公共施設の屋上に太陽光パネルを設置。再生可能エネルギーを活用）
	【環境対策課】スマートハウス化支援補助及び薪ストーブ・木質ペレットストーブ設置補助 （住宅のスマートハウス化支援を目的とした設備の設置費、木質バイオマスを活用した薪・ペレットストーブの設置費を補助）
取り組み①	【廃棄物対策課】ごみ減量化及び資源化の推進 （出前講座の開催、古着古布の拠点回収、使用済小型家電の回収事業等を実施）
	【市政情報課】ペーパーレス会議システム導入 （課長級以上へのタブレット端末配備。経営戦略会議、課長会議等をペーパーレス化できる環境を整備。）

※市の事例は、ステップごとの分類が難しい事例が多いため、代表事例のみ掲載し、事例数は掲載しない。

③ 重点プロジェクト2に関連する市の取り組みに対する自己評価等（平成28年度）

1 自己評価（報告事業数：30事業）				
評価	◎ （予定以上に実施）	○ （概ね予定通りに実施）	△ （あまり予定通りに実施できず）	× （ほとんど実施できず）
事業数	0	27	1	2
※×の事業： 小学校増改築事業 （地元調整に時間を要し、太陽光発電システムの基本設計未着手） （地元調整に時間を要し、LED 照明導入の基本設計未着手） △の事業：公共施設の電力使用量抑制（電気使用量削減に努めたが、前年より使用量が増加）				
2 平成29年度に新規に実施予定があると報告のあった主な事業（一部抜粋）				
	事業名等	事業概要		
1	【廃棄物対策課】 一般廃棄物適正排出指導事業	事業所等から排出される一般廃棄物の訪問状況調査及び排出指導を実施。現状を改善し、適正な排出、減量化及びリサイクルの促進を図る。		
2	【廃棄物対策課】 フリーマーケット開催事業	家庭で通常廃棄される遊休品について再利用し、ごみの減量化を促す機会としてフリーマーケットを開催		

④ 重点プロジェクト2に関連する市民・事業者の主な取り組み状況（平成28年度）
（市環境対策課把握分）

	取り組み事例（概要）	事例数
（ステップアップ） 取り組み③	事例はなし	0
取り組み②	【小谷小学校区市民協働まちづくり協議会】 ゆうすふるサンデー活動（省エネ体験・省エネ見学） （子どもたちに省エネに関する体験や見学する場を提供。平成28年度はLED 竹灯作り体験や、福山市にある太陽光発電所やリサイクルプラザの見学を行った。）	26
	【地球温暖化対策地域協議会ひがしひろしま環境家族】 ロケットストーブを作って&遊ぶイベント！ （再生可能エネルギーの小枝や廃材を使って煮炊きできるロケットストーブを作成。安定して燃焼し、高い暖房効果のあるストーブの仕組みを楽しみながら、里山の再生と省エネについて考えた。）	
取り組み①	【生活協同組合ひろしま】再資源化 （来店者向けに、飲用パック、各種トレイ等の7品目の回収を実施。店舗への買い物袋の持参率は89%。これらによるCO2の間接的削減量で計算（自社の計算）すると5,800トンの削減になる。）	31
	【久芳地域センター】リサイクル市 （着なくなった服や、使わなくなったかばんなどを持ち寄れるスペースをセンター内に設け、リサイクル品として展示。）	
	【えこページ】リユース市 （卒業生の不要な家具を集め、新入生たちに安く提供。会場には多くの新入生や在学生が訪れ、毎年、ほぼ完売し。売上金は次年度の活動費に回している。）	

※同一の事例であっても、報告者が異なる場合はそれぞれを1事例としてカウントしている。

⑤重点プロジェクト2の進捗状況と課題

1 進捗状況
市・市民・事業者とも、取り組み①と取り組み②については、ごみ減量化に関する出前講座の開催、リサイクル市、省エネに関するイベントなどの開催により、取り組みが進んでいるが、取り組み③については、あまり取り組みが進んでいない状況である。
2 課題
取り組み③は、ごみの減量化や省エネルギー行動を積極的に実践する家庭や地区（エコファミリー・エココミュニティ）を増やしていくことにつながるものであるが、市では資源循環型のまちづくりを目指し、平成29年度に、雑誌回収イベントやフリーマーケットの開催を予定している。 このような市民が気軽に参加できるイベント等を増やすことは、エコファミリーやエココミュニティを増やすきっかけの一つになると考えられる。今後も、市・市民（地域）ともに、市民が参加しやすい取り組みを展開していくことが、取り組み③を進めて行くことにつながると考えられる。

＜参考２：重点プロジェクト２に関する数値目標に係る進捗状況＞

（１）取り組みの柱１：資源循環型社会の形成

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
１	市民１人１日当たりのごみ排出量	969 g	1,006 g （平成27年度）	850 g	×
２	市民アンケートにおいて「ごみと資源物の分別を行っている」と回答した市民の割合	94%	96% （平成27年度）	100%	○
３	事業者アンケートにおいて「ごみと資源物の分別を行っている」と回答した事業者の割合	91%	95% （平成27年度）	100%	○
４	きれいなまちづくりキャンペーンの参加者人数	15,051人	13,123人 （平成28年度）	16,700人	×
５	市民アンケートにおいて「ごみや吸い殻などのポイ捨てはしないようにしている」と回答した市民の割合	94%	94% （平成27年度）	100%	△

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
10	市民アンケートにおいて「冷房の設定温度は、28度を目安にしている」と回答した市民の割合	63%	61% （平成27年度）	90%	×
11	市民アンケートにおいて「暖房の設定温度は、20度を目安にしている」と回答した市民の割合	55%	59% （平成27年度）	90%	○
12	事業者アンケートにおいて「冷房の設定温度は、28度を目安にしている」と回答した事業者の割合	55%	54% （平成27年度）	90%	×
13	事業者アンケートにおいて「暖房の設定温度は、20度を目安にしている」と回答した事業者の割合	54%	45% （平成27年度）	90%	×
14	「東広島発！ものづくり逸品」の認定を受けた環境関連製品の数	4件	7件 （平成28年度）	10件	○

（２）取り組みの柱２：低炭素社会の形成

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
１	民生家庭部門の二酸化炭素排出量	29.5万t-CO2	平成３０年度に算定を実施	20%以上削減	－
２	市民アンケートにおいて「アイドリングストップを行うなどエコドライブを心がけている」と回答した市民の割合	37%	64% （平成27年度）	60%	◎
３	市民アンケートにおいて「出来るだけ自家用車を使わず徒歩や自転車、バス、電車の利用を心がけている」と回答した市民の割合	23%	29% （平成27年度）	35%	○
４	新エネルギー等の導入目標	－	平成３０年度に算定を実施	期待可採量の20%以上	－
５	廃棄物系バイオマスの利用率	75%	平成３０年度に算定を実施	92%	－
６	未利用バイオマスの利用率	10%	平成３０年度に算定を実施	40%	－
７	市民アンケートにおいて「太陽光発電を行っている」と回答した市民の割合	8%	16% （平成27年度）	30%	○
８	事業者アンケートにおいて「太陽光発電を導入している」と回答した事業者の割合	11%	14% （平成27年度）	50%	○
９	公共施設からの二酸化炭素排出量	24,684 t	25,820t （平成26年度）	23,711 t	×

＜重点プロジェクト２に関する数値目標に係る進捗状況と課題＞

１ 進捗状況

「取り組みの柱１：資源循環型社会の形成」では、市民１人１日あたりのごみ排出量が増加している。

また、「取り組みの柱２：低炭素社会の形成」では、アンケートの結果、「冷房の設定温度は28度を目安にしている」と回答した市民の割合が減少しており、市民生活に身近な評価項目について、結果が悪化している。

２ 課題

ごみの排出量については近年増加傾向にあるが、本年度から、一般廃棄物適正排出指導が実施されており、また、ごみ袋の有料化が始まることなどから、ごみ排出量の減少に一定の効果が期待できると考えられる。

また、冷房の設定温度については、最近では、目安の温度の見直しの議論もなされていることから、今後の国の方針を見定めながら、評価指標としてどう取り扱うかを検討する必要がある。

※表中の達成状況は、現況数値の状況を次のように表したものである。

◎：すでに目標数値を達成済み ○：目標数値には達していないが計画策定時より良化した

△：計画策定時と変化なし ×：計画策定時より悪化した －：比較できる数値がない

(3) 重点プロジェクト3

①重点プロジェクト3の概要

重点プロジェクト3 「意識向上・人材育成プロジェクト」

子供や大人一人ひとりの環境への意識を高め、市民、事業者等が一体となって環境問題に取り組んでいく社会とするための「行動のきっかけづくり」が重要となる。

アンケート結果をみると、環境に対する意識の持ち方は人それぞれですが、意識の高い人はより高く、今は意識があまり高くない人はだんだんと意識を高めていけるように、日常生活の中で人々に浸透し、市全体に広がっていくような取り組みを進める。

「意識向上・人材育成プロジェクト」の展開イメージ



② 重点プロジェクト3に関連する市の主な取り組み状況（平成28年度）

	取り組み事例（概要）
（ステップ3） 取り組み③	【指導課】 環境教育・環境学習の推進 （環境教育プログラムや環境教育における研究会の案内等を通知し、環境教育の推進を図る等）
	【環境対策課】 東広島市の環境（環境白書）DVD作成業務 （学校等で活用されることを目的とした環境学習用教材をパワーポイントで作成。平成29年度に各学校へ配布）
	【環境対策課】 環境リーダー育成 （市内の環境活動や環境リーダーを紹介する「環境活動事例集」を作成して各地域等に配付。環境リーダーが講師となる環境学習を開催）
（ステップ2） 取り組み②	【農林水産課】 環境保全型農業直接支払対策事業 等 （エコファーマーの認定や地球温暖化防止活動等の環境保全効果の高い営農活動に取り組む農業者等を支援）
	【農林水産課】 間伐材等利用可能性調査業務 （自伐林家養成研修・木質バイオマス活用システム構築実証実験等）
（ステップ1） 取り組み①	【環境対策課】 環境学習（えひめAI推進） （環境浄化微生物「えひめAI」に関する環境学習を各地で実施）
	【農林水産課】 緑化推進事業 （自然学習や植樹祭などの行事を通じてみどりの少年団員を養成）
	【指導課】 体験型環境教育の実施 （「山・海・島」体験活動において、自然体験活動をプログラムの中に位置付けて実施）

※市の事例は、ステップごとの分類が難しい事例が多いため、代表事例のみ掲載し、事例数は掲載しない。

③ 重点プロジェクト3に関連する市の取り組みに対する自己評価等（平成28年度）

1 自己評価（報告事業数：14事業）

評価	◎ （予定以上に実施）	○ （概ね予定通りに実施）	△ （あまり予定通りに実施できず）	× （ほとんど実施できず）
事業数	0	14	0	0

2 平成28年度に新規に実施報告のあった主な事業

	事業名等	事業概要
1	【環境対策課】 東広島市の環境（環境白書）DVD作成業務	学校等で活用されることを目的とした環境学習用教材をパワーポイントで作成。平成29年度に各学校へ配布。

3 平成29年度に新規に実施予定があると報告のあった主な事業

	事業名等	事業概要
1	【環境対策課】 環境学習（ひがしひろしまこどもエコ探検隊）	市内の小学生を対象に、自然観察などの様々な環境学習を通じて、市の環境を保全するためにできることを考える「ひがしひろしまこどもエコ探検隊」を立ち上げる。

④ 重点プロジェクト3に関連する市民・事業者の主な取り組み状況（平成28年度）
（市環境対策課把握分）

	取り組み事例（概要）	事例数
（ステップアップ） 取り組み③	【ひがしひろしま環境フェア実行委員会】 ひがしひろしま環境フェア2016開催 （広く環境の保全等について関心と理解を深める機会として、スマートハウス、環境技術、ごみの減量化やリサイクル、自然と調和した生活スタイルなどに関わる展示（体験の場の提供）を行うことによって環境に対する興味を持っていただいた。）	6
	【生活協同組合ひろしま】省エネ （組合員の家庭の省エネ活動を広げるため、「省エネ対策トライアル」を実施し、省エネ実践の数値を集約。また、省エネ相談員のフォローアップセミナーや環境専門委員を対象とした環境学習会を開催。）	
取り組み②	【広島大学総合科学研究科】日本環境学会 第42回研究発表会で発表 （「地域におけるエネルギー自立の課題と可能性ー東広島市を例にしてー」の題目で講演を行った。）	1
取り組み①	【黒瀬川e-co隊】野草観察会 （黒瀬川沿いに生息する春の野鳥・野草の観察会を開催。参加いただいた多くの方に川に親しんでもらい、身近なところに豊かな自然が残っていることを知ってもらいたいと思っている。）	34
	【you 愛 sun こうち】水辺教室 （子どもたちに、地域を流れる椋梨川の水質や生き物について学んでもらうため、一緒に川の流速や透明や、水生生物を調べた。）	
	【東広島市公衆衛生推進協議会 黒瀬支部】冬の水辺教室 （児童や大人たちへ、黒瀬川を基に親水意欲の高揚や環境保全の更なる意識向上を促すため、黒瀬水質管理センターの施設で、生活污水をきれいにし黒瀬川に放流する水の循環について学んでもらった。）	

※同一の事例であっても、報告者が異なる場合はそれぞれを1事例としてカウントしている。

⑤重点プロジェクト3の進捗状況と課題

1 進捗状況
市の取り組みについては、取り組み①の「子供も大人も一緒に学ぶ」、②の「環境に配慮した事業者の育成」については、環境学習、みどりの少年団及びエコファーマー認定などの取り組みが進んでいる。また、取り組み③の「環境リーダーの育成と派遣」については、環境学習教材の作成や環境リーダーの育成などの取り組みを進めており、順調に展開が進んでいる。 一方、市民・事業者の取り組みについては、取り組み①、③については、様々な取り組みがあるが、②については、取り組み事例が少ない。
2 課題
市としては、環境リーダーの発掘や昨年作成した環境学習用教材（DVD）の活用を進めているが、環境リーダーと環境に関する問題を抱えている地域との結び付けや、環境学習用教材（DVD）を活用してもらうための手法や情報発信が課題となっており、より多くの市民や事業者が環境問題に取り組むきっかけ作りをすることが必要である。 市民・事業者については、環境に関する様々なノウハウを持った市民や事業者が、積極的にそのノウハウを他の地域や団体等に伝えて行く出会いの場を作っていくことが必要と考える。

＜参考 3：重点プロジェクト 3 に関する数値目標に係る進捗状況＞

（１）取り組みの柱 1：環境教育・環境学習の推進

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
1	環境に関する講師を招いて実施した環境学習の授業時間数	183時間	112時間 （平成28年度）	246時間	×
2	環境に関する出前講座の実施回数	30回	67回 （平成28年度）	50回	◎
3	市民アンケートにおいて「家庭内で環境問題について話し合いを行っている」と回答した市民の割合	29%	39% （平成27年度）	60%	○
4	事業者アンケートにおいて「環境に関する従業員教育」を行っている」と回答した事業者の割合	33%	45% （平成27年度）	60%	○

（２）取り組みの柱 2：環境情報の充実

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
1	市民活動情報サイト（環境eco）の登録団体数	22団体	22団体 （平成28年度）	47団体	△
2	事業者アンケートにおいて「環境報告書やインターネットによる自社の取り組みの公表」を行っている」と回答した事業者の割合	17%	12% （平成27年度）	50%	×

（３）取り組みの柱 3：市民・事業者等の環境保全活動の促進

No.	評価項目	計画策定時の数値	現況数値	計画終了時の目標数値	達成状況
1	市民アンケートにおいて「清掃活動などの地域の環境保全活動に参加している」と回答した市民の割合	59%	62% （平成27年度）	80%	○
2	市民アンケートにおいて「市や団体等が主催する環境保全のイベントや活動に参加している」と回答した市民の割合	24%	18% （平成27年度）	60%	×
3	事業者アンケートにおいて「環境マネジメントシステム（EMS）の導入」を行っている」と回答した事業所の割合	28%	9% （平成27年度）	60%	×

※表中の達成状況は、現況数値の状況を次のように表したものである。

◎：すでに目標数値を達成済み ○：目標数値には達していないが計画策定時より良化した

△：計画策定時と変化なし ×：計画策定時より悪化した ー：比較できる数値がない

＜重点プロジェクト 3 に関する数値目標に係る進捗状況と課題＞

1 進捗状況

「取り組みの柱 1：環境教育・環境学習の推進」では、環境に関する講師を招いて実施した環境学習の授業時間数が減少しているが、環境に関する出前講座の実施回数については、大きく増加している。

また、「取り組みの柱 3：市民・事業者等の環境保全活動の促進」では、アンケートの結果「市や団体等が主催する環境保全のイベントや活動に参加している」と回答した市民が減少しており、市民の環境保全に係る意識啓発が進んでいないと考えられる。

2 課題

市では様々な環境学習出前講座のメニューがあることから、出前講座に関する情報を積極的に学校へ発信したり、学校が活用しやすい出前講座のメニューを作成したりするなどの取り組みが必要と考えられる。

また、市民向けにも幅広く環境学習を行ったり、親子で参加できる環境保全活動の開催などを進めたりして、環境保全活動等へ参加する機会を作る必要がある。